

7

2020

三重病院

ニュースレター

news letter vol.251

- 01 重度脳性麻痺に対する整形外科的治療
- 02 臨床研究部からのお便りー第26回ー
新入staff紹介コーナー
- 03 NHO PRESS～国立病院機構通信～のご紹介
医療安全便り
やまばとギャラリー情報コーナー
- 04 5病棟の生活のひとコマ⑤⑨
通所支援事業のひとコマ
- 05 異動のごあいさつ／転勤のごあいさつ
- 06 病院からのお願い
外来からのお知らせ／外来診察のご案内

重度脳性麻痺に対する整形外科的治療

脳性麻痺では、幼少時からの筋肉の緊張で、下肢に負担がかかると、股関節が閉じて脱臼したり、膝は曲がって伸びなくなったりします。また、足は尖足といって足先がピンと伸びたり、内向きに捻じれたりします。関節周囲の筋肉・腱・靭帯などに痛みや硬さを生じることもあり、特に重度であると、体の変形、運動制限が強く、日常生活介助も不便になることがあります。

様々な治療が行われていますが、リハビリや装具療法が基本になることに変わりはなく、なるべく緊張を押さえて、関節の脱臼、拘縮を防ぎ、安定した座位姿勢、臥位姿勢をとることを考えます。幼少期から小児科的な治療のもと、外来リハビリ、通所リハビリ、訪問リハビリなどの治療が行われていると思います。

三重病院整形外科では、脳性麻痺、小児整形外科疾患に対し、**子どもから大人まで入院にて月単位でリハビリ**を行うことができます。必要に応じてPT,OT,STを組み合わせ、ボトックス注射による筋緊張緩和、小児神経科による投薬治療を取り入れることもできます。さらに重度の脳性麻痺であっても全身状態が許せば、筋緊張低下と姿勢改善のために、**子どもから大人まで筋解離術を中心とした手術**を多関節に対して行っています。手術後は入院にてリハビリをしっかりと行うようにしています。

手術は痛む場所、拘縮の強い関節の筋解離・変形矯正術（筋肉や腱を伸ばし、形を整えます）を中



心に計画しますが、下肢全体の麻痺、緊張を十分評価することが重要です。程度に合わせて股関節・膝・足などの多部位手術となります。術後は新しい筋力バランスでの安定を得ることが重要で、中長期のリハビリ入院が必要になります。

長年の麻痺、筋緊張から生じる症状、姿勢異常には、じっくりと入院による整形外科的治療を行うことも重要です。からだ全体の機能維持のため、必要に応じ適宜、リハビリ入院単独でも行えます。興味がおありの方は、お気軽に当院整形外科にお問合せ下さい。

（整形外科 西山 正紀）

21歳5か月 脳性麻痺



右股関節脱臼

両股両膝両足
6関節の筋解離術

23歳4か月 術後1年9か月

